

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

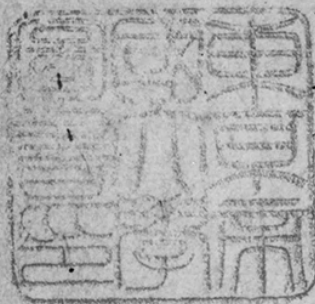
院內鑛山起業工事

至全

從明治十二年十一月

十四年八月

現况概畧



經濟

40010

經濟學部
研究室
5
1515



院内鑛山起業工事

自明治十一年十一月

現存概略書

這院内鑛山改良起業ノ源ハ始メ明治十一年

文公工部者御用取扱ノ時ニ当テ廟議起業基金ヲ以テ大

ニ此坑業ヲ與スノ事ニ決シ鑛山局長佐藤与三君ヨリメ

鑛山ノ業ニ煉熟セル外國人四名ヲ傭役セサル可ラサル

トシ止請スル所トナリ廟議其請ヲ允可シ遠ク独乙國在

苗全權公使青水周藏君ニ諮リ即チ十二年一月二日結約

成リ今年三月坑夫頭獨乙國人「プアイヘル」未航(阿仁外局

鑛山師メツケル氏)同年五月月國人鑛山師クリスチアン

ト共ニ未航(未)同氏未航(未)同氏未航(未)同氏未航(未)

バンガ氏未航(未)東京ニ在ルヲ若干日ニシテ東京ヲ発シ青

島ヲ經テ阿仁ニ来リ七月下浣ヲ以テ坑夫頭「プアイヘル

ト共ニ此山ニ来ル即チバンガ氏ヲ技長ノ地位ニ置キ「プ

アイヘル」ヲ坑夫頭ト定ム是ニ於テ技長坑夫頭ニ余メ坑

内一般ノ測量ヲ爲サシメ決テ測量團ヲ製シ大卒ニ新事
業ノ目的ヲ立テ技長自ラ事業着手ノ順序及ヒ製煉ノ方
法及ヒ建築落成ノ后營業収益ノ事ニ至ルマテ終ク後未
目途ノ報告書ヲ草ス此草ヲ未タ稿ヲ脱セサルノ際又同
年九月ヲ以テ工部卿山尾庸三公巡視シ技長ト備ラ後未
ヲ商議シ次テ微臣院部ニ命スルニ技長ノ報告書未タ成
ラスト亟ニ其最要ノ点ハ速ニ手ヲ下シ起業ノ緒ニ就ク
可シト因テ技長ト相談シフアトヘル及ヒ技樹生ニ命メ
車ヲ操ラシム先ツ大切旧疏水道ノ開闢旧西山渡(坑内)
ニ向テ大堅坑ヲ掘下スルカ爲メ二旧早房坑ノ下傍ヨリ
新ニ横坑道ヲ切開スル等ノ事ニ着手ス既ニメ技長ノ報
告書成ル矣之ヲ本局ニ呈進ス隨テ坑内各処ノ業ニ就ク
即チ早房横坑道新鑿及ヒ大切疏水道ノ開闢ハ十二年十

一月十九日ヲ以テ始テ手ヲ下シ其横坑道ハ十三年五月
十六日ヲ以テ西山渡ニ達ス此延長貳百貳拾六尺間処ヨ
リ堅坑掘下ハ十三年五月十七日着手同年十月七日ヲ以
テ旧疏水道ニ達ス此延長二而五拾二尺更ニ掘下スル
四拾四尺六寸十三年十月十日着手同年十一月廿五日竣成
即チ是点ヨリメ川下ニ向ヒ洞開シテ大切旧疏水道ノ改
良測点ニ結合セシメンコトヲ豫定シテ穿堀ス尔後十三年
四月十五日ヲ以テ旧三番煙坑ノ傍ニ於テ旧疏水道ニ向
テ一ノ堅坑ヲ掘下ス此切開延長一而二尺三寸ニメ疏水
道ニ達ス之ヲ同年七月八日トス是ノ結合点ヨリ一方ハ
川下ニ向テ鑿堀シ同七月十七日ヲ以テ着手十四年五月
八月ヲ以テ大切口ヨリ川上ニ向ヒ鑿堀スル線ト結合一
方ハ川上ニ向テ鑿堀スル線同七月廿六日ヲ以テ着手十

四年一月八日ヲ以テ旧四番坑ヨリ川下ニ向テ鑿堀ス
ル線ト結合ス旧四番煙坑ヨリ改良疏水道新線ニ向テ横
坑道ヲ穿ツモノ同五月十二日着手同月九日告成此延
長三於六尺其点ヨリシテ更ニ川下ニ向テ鑿堀スルノ線
同月六月三日着手三番坑川上ニ向フ線ト結合ス此延長
三百拾四尺七寸五分十四年一月八日ヲ以テ結合ス川上
ニ向フ線ト五月九三日着手十四年一月十五日ヲ以テ旧
小南澤坑ノ川下向ト結合ス旧小南沢坑衡切是亦々旧四
番坑ト同ク改良新線ニ向テ穿堀スル者ニメ七月九日
着手八月十五日告成此延長二百五拾八尺九寸其点ヨリ
川下ニ向テ開堀スル者八月十六日着手四番坑川上ニ向
テ開堀スル線ト十四年一月十五日ヲ以テ結合ス其川上
ニ向フ線ハ十三年九月十日着手同月十二月九日ヲ以

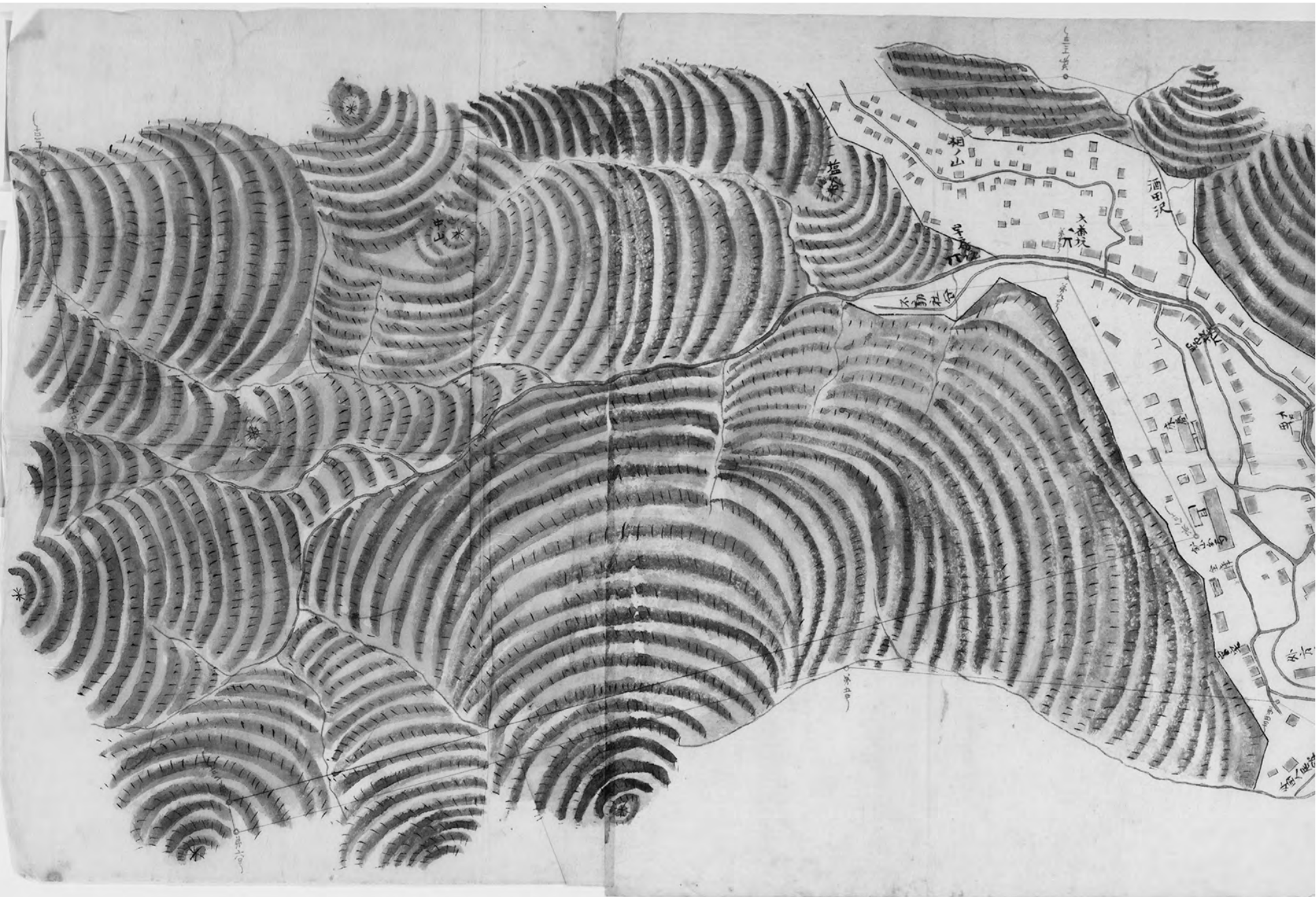
テ五丈ケ川下ニ向フ線ト十三年十二月廿七日結合五丈
ケノ衡切ハ旧小南沢坑ト全ク改良新線ニ向テ完堀スル
者ニメ十三年八月廿三日着手同月十六日結合其点ヨリ
メ上下ニ向テ完堀スル前ト同シ其川上ニ向フモノハ十
三年十月着手五番川下向ト十四年二月九日結合五番川
上向ハ十三年十月十二日着手於七井目川下向ト十四年
九月十四日ヲ以テ結合ス於七井目坑衡切モ亦々前四番
坑以下ノモノト同シ是ハ十三年十月九日着手同月廿五
日告成其点ヨリ上下ニ完堀スル亦々前ニ全シ具川上ニ
向フモノハ西山浚ヨリ川下ニ向フ十三年十一月廿六日
着手ノモノト十四年八月十六日結合ス即チ掘尺六千四
百尺七寸五分縦横通シテ八尺ニ九尺是ヲ坑内ニ係ルノ
事業トス

同時ニ地表ノ土エヲ起スモノハ即チ現今通行スル処ノ
道路ニメ外局門前ヨリ上院内村字荒町ニ達スルモノ其
延長壹里五町五拾六間三尺六寸ニメ幅員ハ通メ十二
尺トス此道ハ原ト一細逕ニメ迂曲凸凹溪水横流シヤ鞋
ヲ穿テ杖ニ拠リ澗石ヲ踏ミ通スヘクシテ行步甚々難シ
一兩降ルアレハ數旬ノ間行潦膝ニ及フカ如キ固ヨリ道
路ト称スヘキモノニ非ス故ニ一物ヲ運輸スルモ悉ク負
擔ノ勞ニ取り稍々重キ物ハ僅リニ牛馬ノ力ヲ借ルニ止
リ取テ運車ノ便ヲ得ル能ワス之力為メニ費用冗多ナル
ノミナラス至重ノ物量ニ至テハ全ク運搬スル能ワス故
ニ先ツ此道路ヲ修築スルニ非サレハ諸器械其他木石杖
ノ如キ而般需用ノ物量運送ノ便ヲ得ケルガ為メニ之ヲ
地表第一ノ工事ニ附ス即チ十三年五月十三日ヲ以テ起

工九月二十三日ヲ以テ落成ス此間新橋ヲ架スル大ナル
者即チ長倉村晚成橋十分一中ノ橋小ナル者四ツ是ハ
字十久一以内ニ在テ銀山川ニ注ク溪流ニ架スル小橋ニ
シテ別ニ名ヲ付スヘキ者ニ非ラズ次ニ櫻籟製礮ノ用ニ
向テ水道鑿道ヲ要スルヲ以テ同時ニ此土工ニ着手ス此
水道ハ即チ字十分一ニ堰ヲ作り水源ト為スノ目的ヲ以
テ先ツ同所ヨリ字燒石坂迄ヲ測定シテ水源ニ於テ先ツ
隧道ヲ穿ツノ事ニ次シ之ニ着手ス此隧道ハ十三年九月
三日始業十四年二月廿日開通此長廿而六尺六寸其他土
坡ノ工事此隧道ヨリ燒石坂迄長廿五尺八寸四尺ノ処
十三年八月十三日着手同年十一月十一日竣切燒石坂ニ
於テ又々一ノ隧道ヲ穿ツ是ハ十三年十月廿日着手十四
年四月二十三日開通此長廿四而三尺六寸此間第一溪茅

朱書

插入文書



二溪ニ萬年樋ヲ伏スル貳ヶ所且ツ大切崩川ヲ斜断シテ
 算ヲ載スヘキ一橋ヲ架ス此長才百拾尺巾八尺別ニ大切
 坑口ヨリ碎礦所ニ達スル小水道及ヒ鍊道七百九拾二尺
 ノ中更ニ長才四十尺巾六尺宛ノ二段ノ架橋ヲ為ス現今
 落成スル処ノモノトス此適用ハ撰礦器械運轉ノ為メニ
 設クル水車ノ動力ニ供スルモノニメ其鉄道ハ其原ヲ大
 切口ニ取リ水道ト併行シテ長倉村製礦所ニ通ス其水道
 ト異ナル所ハ洗鑛処ヲ經テ水南ノ道ニ結合スルノ一土
 坡ヲ設クルノミ其長才水道ノ長ニ適フ其水道ノ全長ハ
 即チ字ナク一水源ヨリ長倉製礦処至ルモノ大略五十八
 拾二尺其水鉄兩道ニ向テ算ヲ据付鐵線ヲ置ク力如キハ
 今方ニ工事中ニ在リ

一 造家ニ属スル工事ハ左ノ數項ノ如シ

- 一 外國人居館ニ階家建 九拾八坪 十二年九月一日 着手
 料理部家拾二坪七合五勺物置小屋并戸算ハ之ニ属ス 十三年六月三日 落成
- 一 円断平家建 五拾坪 十二年九月一日 着手
 前日断料理部家八坪八合八勺三々 十三年六月三日 落成
- 一 畚械製作所 五拾坪 十三年九月十三日 着手
 十三年四月三十日 落成
- 一 鍛冶鑄物所 五拾七坪 十三年九月十三日 着手
 十四年四月三十日 落成
- 一 前附属鑄物庫 拾貳坪 十四年五月九日 着手
 六月三十日 落成
- 一 小棟撰礦所 九拾三坪七合七 十三年十一月四日 着手
 十四年六月三日 落成
- 一 大棟撰礦所 八拾九坪七合 十四年九月十日 落成
- 一 搗礦所 六拾七坪九合 全 四月二十七日 着手
 七月三十日 落成
- 一 起業及役所 九拾八坪 全 十一月十五日 落成
- 一 倉庫 六拾坪 十四年七月十七日 着手
 九月二十五日 落成
- 一 大棟洗礦所 百三拾二坪三合 全 三月十七日 着手
 四月十五日 落成見込

一小株洗礦所

以上於二株ハ既成ノモノトス

内 小株洗礦所ハ切廻捲キ五月申ニ取ルト至氏撰礦師兼所長地形ノ方法改定ニ依リ少ク遲延ス

一炭庫大棟

四六六坪二合ニタニタ

一全 小棟

四八六坪六合ニタニタ

一木材庫

五八坪

一沈殿所

五八坪三合ニタニタ

一焙燒所

百七四坪五合六タニタ

一鞣器棟所

二八七坪七合七タニタ

一鑛石庫

四八坪

一磨器棟所

八七坪七合七タニタ

一木材庫

五八坪

一介持所

七二坪二合ニタ

七六六坪六合ニタニタ

十三年三月十七日 兼所長 十月中落成見込

一鑛礦所

九八三坪三合ニタニタ

以上拾壹棟ハ地形其他ノ基礎ハ既成木材亦造運搬其他土苗石垣ノ如キハ今方ニ操事中

一撰礦製鑛ノ事業ニ向テハ亦々独乙国人「ボーローシング」リツプシエーイニ「西氏」ヲ聘ス「リツプシエーイ」ハ十四年一月東京ニ来リ「ロ」シニ「グ」ハ四年四月東京ニ来ル共ニ四月廿七日ヲ以テ此鑛山ニ至ル則チ「ロ」シニ「グ」ヲ熔鑛師ト定メ「シエーイ」ヲ撰礦夫頭ト定ム次テ大學校卒業生ニ名ヲメ同坑製鑛ノ事業ニ随ワシメ今方ニ勉務事ヲ操ル

以上述ル処ハ起業ノ端緒ヨリ以テ今日ニ至ルノ現況ヲ陳フルモノニモ此業ノ諸工事ヲ終ルノ期ハ十五年六月ト豫定シ七月已降ハ乃チ營業ニ就クノ目途ヲ立テ在局

光日録

ノ吏戮カ同心ニ冬ノ間堆雪致候ノ中ニ奔馳シ盛夏日ハ
炎威赫々ノ野ニ從事シ終年ノ間僅カニ大祭日ノ休暇
ルノミニメ昧且ヨリ薄暮ニ及ク出入実ニ星ヲ載ク庶幾
クハ衆吏ノ 王事ニ艱苦黽勉スルノ状ヲ執奏シ以テ
天聽ニ達ロシメ王ヲシテ伏テ懇願ス

鑪山院内分局在勤

明治十四年九月

工部一等属福島院部候首

工部大輔吉井友實殿

